

HEAD COSMETICS

Publication number: JP1313414

Publication date: 1989-12-18

Inventor: KON SUUBOO; YAN NANJIYAN; CHIYON JIDON;
KOMAZAKI HISAYUKI; NAKANISHI JIYOUTAROU;
TOMITA KENICHI

Applicant: BEIJIN RIIYUEN RIIYON FUASHIYU; SHISEIDO CO
LTD

Classification:

- International: **A61K8/00; A61K8/97; A61Q5/00; A61Q5/02;
A61Q7/00; A61K8/00; A61K8/96; A61Q5/00;
A61Q5/02; A61Q7/00; (IPC1-7): A61K7/06; A61K7/075**

- European:

Application number: JP19880128597 19880527

Priority number(s): JP19880128597 19880527

Report a data error here

Abstract of JP1313414

PURPOSE: To obtain a cosmetic for the head part having excellent effect to especially prevent alopecia and accelerate generation, growth and nourishing, etc., of the hair by including an extract of a family Rosaceae or a family Moraceae plant. **CONSTITUTION:** This cosmetic for the head part contains an extract of a family Rosaceae plant (e.g. *Persica vulgaris*, *Agrimonia eupatoria* var. *pilosa*, *Duchesnea chrysantha*, *Geum japonicum* or *Kerria japonica*) or the one of a family Moraceae plant (e.g. *Artocarpus communis*, *Broussonetia kazinoki*, *Cudrania tricuspidata* or *Ficus carica*) in an amount of 0.01-5wt.% as a dried substance. Furthermore, the cosmetic for the head part contains an extract of fruits, flowers, barks or branches of *Eriobotrya japonica* or *Morus bombycis* or an extract of flowers, roots, stems, barks, branches or leaves of *Humulus lupulus*. Otherwise, the extract of the family Rosaceae plant or the family Moraceae plant may be combinedly used with an extract of a plant belonging to family Gentianaceae (e.g. *Swertia japonica*), family Apiaceae (e.g. *Angelica acutiloba*), family Araliaceae or family Zingiberaceae, etc. The cosmetic for the head part is especially effective for prevention of alopecia or generation of hair, etc., and has a high safety.

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

⑫ 公開特許公報(A) 平1-313414

⑤ Int. Cl.⁴A 61 K 7/06
7/075

識別記号

庁内整理番号

8314-4C
8314-4C

⑬ 公開 平成1年(1989)12月18日

審査請求 未請求 請求項の数 4 (全10頁)

⑭ 発明の名称 頭部化粧料

⑯ 特 願 昭63-128597

⑰ 出 願 昭63(1988)5月27日

⑱ 発 明 者 コ ン ス ー ボ ー 中華人民共和国, ベイジンシ チョンネイ ダージェ 96

ハオ ベイジンシ トンレンビンユエン

⑲ 出 願 人 ベイジン リーユエン 中華人民共和国, ベイジンシ チョンウエンチュウ シー

リーヨン ファシユ ガーシンリー 116ハオ

エ グーフエン ヨウ

シエン ゴンスー

⑳ 出 願 人 株式会社資生堂 東京都中央区銀座7丁目5番5号

㉑ 代 理 人 弁理士 青木 朗 外3名

最終頁に続く

明 細 書

1. 発明の名称

頭部化粧料

2. 特許請求の範囲

1. モモ、キンミズヒキ、ヘビイチゴ、ダイコンソウ、ヤマブキ、カワラサイコ、ツチグリ、オヘビイチゴ、コウシンバラ、ナニワイバラ、ノイバラ、ハマナス、ボサツイバラ、キイチゴ、トックリイチゴ、シマバライチゴ、エビガライチゴ、ワレモコウ、サンザシおよびカリンからなる群から選んだバラ科植物の抽出物少なくとも一種、またはハラミツ、コウゾ、ハリグワ、イチジク、ヒメイチビ、イタビカズラ、アサおよびガジュマルからなる群から選んだクワ科植物の抽出物少なくとも一種を含有することを特徴とする頭部化粧料。

2. ビワまたはクワの果実、花、茎、皮または枝の抽出物を含有することを特徴とする頭部化粧料。

3. ホップの花、根、茎、皮、枝または葉の抽出物を含有することを特徴とする頭部化粧料。

4. バラ科植物の抽出物またはクワ科植物の抽出物と、リンドウ科、セリ科、ウコギ科、ショウガ科、ナス科、ゴマノハグサ科、マメ科、ゴマ科、タデ科、ロカイ科、ミカン科、キク科、アブラナ科、イネ科、クマツヅラ科、シソ科およびウラボシ科からなる群から選んだ植物の抽出物少なくとも一種とを含有することを特徴とする頭部化粧料。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、バラ科植物抽出物またはクワ科植物抽出物を含有するか、またはそれら抽出物と従来より養毛剤等の成分として用いられてきた各種植物抽出物とを含有することにより、特に脱毛防止、発毛、育毛、養毛などを促進する効果に優れた頭部化粧料に関するものである。

(従来技術)

従来より、各種薬剤を配合した養毛化粧料が知られている。例えば、ビタミンBなどのビタミン類、メチオニンなどのアミノ酸類、アセチルコリ

ン誘導体などの血管拡張剤、紫根エキスなどの抗炎症剤、エストラジオールなどの女性ホルモン剤、セファランチンなどの皮膚機能亢進剤などが配合され、脱毛症の予防及び治療に用いられている。

しかしながら、従来の養毛化粧料はフケ、カユミ、抜毛などの予防及び改善に有効で、発毛や育毛を促進するとされているが、いまだ満足すべき効果を発揮するものは得られていない。

(発明が解決しようとする課題)

本発明者等は脱毛防止、発毛等に有効で、安全性に優れた天然由来の薬剤を鋭意検討した結果、特定のバラ科植物抽出物あるいは特定のクワ科植物抽出物がこの課題を解決しうることを見出し、本発明を完成するに至った。

(課題を解決するための手段)

従って、本発明は、モモ(*Prunus persica*)、キンミズヒキ(*Agrimonia pilosa*, Ledeb.)、ヘビイチゴ(*Duchesnea* sp.)、ダイコンソウ(*Geum japo-*

nicum, Thunb.)、ヤマブキ(*Kerria japonica*)、カワラサイコ(*Potentilla chinensis*)、ツチグリ(*Potentilla discolor*)、オヘビイチゴ(*Potentilla Kleiniana*)、コウシンバラ(*Rosa chinensis*)、ナニワイバラ(*Rosa laevigata*)、ノイバラ(*Rosa polyantha* あるいは *Rosa multiflora*)、セイヨウバラ(*Rosa centifolia*)、ハマナス(*Rosa rugosa*, Thunb.)、ボサツイバラ(*Rosa Thoryi*)、キイチゴ(*Rubus corchorifolius*)、トックリイチゴ(*Rubus* sp.)、シマバライチゴ(*Rubus Lambertianus*)、エビガライチゴ(*Rubus phoenicolasius*)、ワレモコウ(*Sanguisorba officinalis*, L.)、サンザシ(*Crataegus cuneata*) およびカリン(*Pseudocydonia sinensis*) からなる群から選んだバラ科抽出物少なくとも一種、またはハラミツ(*Artocarpus integrifolia* L.)、コウゾ(*Broussonetia* sp.)、ハリグワ(*Cudrania tricuspidata*, Bur.)、イチジク(*Ficus Carica*, L.)、ヒメイチビ(*Ficus stipulata*, Thunb.)、イクビカズラ(*Ficus stipulata*, Thunb.)、ガジュマル(*Ficus Wightiana*, Wall) およびアサ

(3)

(*Cannabis sativa*) からなる群から選んだクワ科植物の抽出物少なくとも一種を含有することを特徴とする頭部化粧料に関する。

更に、本発明はビワ(*Eriobotrya japonica*) またはクワ(*Morus bombycis*) の果実、花、茎、皮または枝の抽出物、あるいはホップ(*Lupuli strobilus*)の花、根、茎、皮、枝または葉の抽出物を含有することを特徴とする頭部化粧料にも関する。

更に、本発明はバラ科植物の抽出物またはクワ科植物の抽出物と、リンドウ科の植物としてセンブリ(*Swertia japonica*)、セリ科の植物としてトウキ(*Angelicae acutiloba*)、センキュウ(*Cnidium officinale* または *Ligusticum wallichii*)、ウコギ科の植物としてニンジン(*Panax ginseng*)、チクセツニンジン(*Panax japonicus*)、ショウガ科の植物としてショウガ(*Zingiber officinale*)、ナス科の植物としてトウガラシ(*Capsicum annuum* L.)、クコ(*Licium chinense*)、ゴマノハグサ科の植物としてジオウ(*Rehmannia glutinosa*)、マ

(5)

(4)

メ科の植物として甘草(*Glycyrrhiza glabra*)、オウギ(*Astragalus Hoantchy* あるいは *A. Henryi* Oliv. あるいは *A. membranaceus*, Bung.)、ホコツシ(*Psoralea Cor-ylifolia* L.)、ゴマ科の植物としてゴマ(*Sesamum indicum* L.)、クデ科の植物としてカシュウ(*Poligonum multiflorum*)、ヨウテイ(*Rumex japonicus* H. あるいは *Rumex crispus*)、ロカイ科の植物としてアロエ(*Aloe* sp.)、ミカン科の植物としてサンショウ(*Zanthoxylum Fruit*)、ゴシュユ(*Evodia rutaecarpa* または *Evodia officinalis*)、キク科の植物としてヨモギ(*Artemisia princeps*)、ベニバナ(*Carthamus tinctorius* L.)、アブラナ科の植物としてカラシ(*Brassica cernua* あるいは *Sinapis alba* L.)、イネ科の植物としてイネ(*Oryza sativa* L.)、クマツヅラ科の植物としてマンイシ(*Vitex rotundifolia*)、シソ科の植物としてマンネンロウ(*Rosmarinus officinalis*)、タンジン(*Salvia multiorrhiza*, Bunge あるいは *Scutellaria indica*, L.) およびウラボシ科の植物としてコッサイホ(*Drynaria*

(6)

Fortunei) からなる群から選んだ植物の抽出物少なくとも一種を含有することを特徴とする頭部化粧料にも関する。

また、本発明においてはモモの種子であるトウニン、キンミズヒキの茎葉であるリュウゲソウ、ヘビイチゴの果実であるジャモ、ダイコンソウの地下茎であるスイヨウバイ、ヤマブキの花であるテイトウ、カワラサイコの草本であるイリヨウサイ、ツチグリの塊根であるホンハクソウ、オヘビイチゴの全草であるジャガン、コウシンバラの花であるゲッキカ、ナニワイバラの根、葉、花であるキンオウ、ノイバラの根、葉、花、果実またはセイヨウバラの葉であるショウビ、ノイバラの果実であるエイジツ、ハマナスの花であるマイカイ、ボサツイバラの根葉であるジュウシマイ、キイチゴの根、葉、果実であるケンチョウ、トックリイチゴの根、葉、果実であるフクボン、シマバライチゴの果実であるハウルイ、エビガライチゴの全草であるヤチョマ、ワレモコウの根、葉であるチュまたはハラミツの果実、種又は仁であるハラミ

ツ、コウゾの枝、茎、樹皮、葉、果実であるチヨ、ハリグワの樹皮であるシャ、イチジクの葉、果実であるムカカ、ヒメイチビの幼木であるラクセキ、イチビカズラの葉、果実であるモクレン、ガジュマルの根であるヨウを特に使用するのが好ましい。

本明細書において「頭部化粧料」とは、頭髮または頭皮に与えて頭髮の育毛、発毛または養毛を促進し、脱毛を防止し、頭皮もしくは頭髮を清潔に保ち、ツヤや美しさを与え、毛根を強壮し、フケやカユミを防止する化粧料を意味し、例えば養毛化粧料、育毛化粧料、発毛化粧料（例えばヘアトニック）、頭髮化粧料（例えばシャンプー、リンス）、整髪化粧料（例えばヘアリキッド、ヘアクリーム、ヘアムース）等が含まれる。

本発明の化粧料においては、バラ科植物の果実、花、根、茎、皮、枝またはクワ科植物の花、根、茎、皮、枝を用いる。バラ科植物では特に花を、そしてクワ科植物であるクワまたはモクレンでは特に果実を用いる。

ビワ以外の前記のバラ科植物、またはクワ以外

(7)

(8)

の前記のクワ科の植物では前記の部分以外に全草および葉を用いることができる。ホップ以外の前記のクワ科の植物では、前記の部分以外に全草および実を用いることができる。

バラ科植物の抽出物および／またはクワ科植物の抽出物と併用することのできる植物抽出物は以下のとおりである。

センブリは全草を用いる。トウキは根を用いる。ニンジン根は根を用いる。ショウガは根〔乾燥体を用いる。カンキョウという〕を用いる。トウガラシは果実を用いる。ジオウはショウジ（生地）とも言われ、根を用いる。甘草は、その成分であるグリチルリチンより得られるグリチルリチン酸モノアンモニウムまたはグリチルレチン酸を用いる。ゴマは種子を用いる。センキョウは根を用いる。カシュウはツルドクダミとも言われ、根あるいは葉を用いる。ヨウテイは根、葉あるいは果実を用いる。アロエは葉を用いる。サンショウは果実を用いる。ゴシュウは果実を用いる。クコは茎、葉、根、皮あるいは果実を用いる。ヨモギは葉あるいは果実

を用いる。カラシは葉あるいは種子を用いる。イネは種子または茎を用いる。マンケイシは果実を用いる。マンネンロウは葉を用いる。コッサイホはウンリョウシダとも言われ根茎を用いる。ベニバナは花を用いる。オウギは根茎あるいは葉を用いる。カンキョウは根茎、葉を用いる。タンジン根は根を用いる。ホコツシはマメ科の植物で果実を用いる。チクセツニンジン根は根、茎や葉を用いる。

本発明で用いる植物抽出物の製造方法は、バラ科植物、クワ科植物あるいは他の植物を溶媒、例えば、熱水やメタノール、エタノール等の低級アルコールあるいは含水低級アルコールあるいはプロピレングリコール、1, 3-ブチレングリコール等の多価アルコールあるいは含水多価アルコール等の含水アルコール等で抽出することからなる。本発明における植物抽出物の配合量は、頭部化粧料全量中、乾燥物として 0.005重量%以上、特に 0.005~10重量%、好ましくは 0.01~5重量%である。0.005重量%未満であると、本発明の効果が十分に得られず、好ましくない。

(9)

(10)

本発明の頭部化粧料は前記の必須成分に加えて、必要に応じて、本発明の効果を損なわない範囲内で、化粧品、医薬部外品、医薬品等に一般に用いられる各種成分、水性成分、保湿剤、増粘剤、防腐剤、酸化防止剤、香料、色剤、薬剤等を配合することができる。薬剤としては例えばビタミンEアセテート、ニコチン酸ベンジル、グリチルリチン酸、ヒノキチオール、グリチルリチン酸モノアンモニウム、ピオチン、ビタミンB6、エチニルエストラジオール等が用いられる。

(実施例)

次に、この発明の頭部化粧料の製造方法及びその効果を実施例により詳細に説明する。

育毛効果の測定法 (マウスでの育毛効果測定)

雄のC3Hマウス(生後60日)を用い、小川らの方法(Normal and Abnormal Epidermal Differentiation, M. Seiji および I. A. Bernstein 編、東大出版会)に従い実験を行なった。マウスの背部毛を約2×4cmの大きさに剃り、翌日より1日

1回ずつ連日サンプル塗布を行ない、毛再生が始まった部分の面積比の変化を求め、毛再生の早さの比較を行なった。サンプルは各種植物抽出液の乾燥物を75%エタノールに攪拌溶解し、これに界面活性剤を添加、溶解して調製した。対照用サンプルとして75%エタノールを用いた。各試料ともマウス10匹ずつを用い、その変化率の平均値を求めた。20日後の毛再生面積の結果を百分率にて表-1に示した。

比較例 1

(1) 75%エタノール 100 %

比較例 2

(1) クワ(葉)75%エタノール抽出物(乾燥物) 2.0 %

(2) 75%エタノール 残余

比較例 3

(1) ニンジン(根)70%エタノール抽出物(乾燥物) 0.25 %

(2) オウギ(根)60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.25 %

(3) トウキ(根)50%エタノール抽出物(乾燥物) 0.25 %

(11)

(12)

(4) センキュウ(根)80%エタノール抽出物(乾燥物) 0.25 %

(5) カンキョウ(根)50%エタノール抽出物(乾燥物) 0.25 %

(6) ベニバナ(花)75%エタノール抽出物(乾燥物) 0.25 %

(7) タンジン(根)60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.25 %

(8) ホコツシ(根)75%エタノール抽出物(乾燥物) 0.25 %

(9) 70%エタノール 残余

比較例 4

(1) ホップ(実)熱水抽出物(乾燥物) 2.0 %

(2) 75%エタノール 残余

比較例 5

(1) ビワ(葉)75%エタノール抽出物(乾燥物) 2.0 %

(2) 75%エタノール 残余

実施例 1

(1) ノイバラ(花)の75%エタノール抽出物(乾燥物) 2.0 %

(2) 75%エタノール 残余

(13)

実施例 2

(1) セイヨウバラ(花)の75%エタノール抽出物(乾燥物) 2.0 %

(2) 75%エタノール 残余

実施例 3

(1) マイカイの75%エタノール抽出物(乾燥物) 2.0 %

(2) 75%エタノール 残余

実施例 4

(1) クワ(実)の75%エタノール抽出物(乾燥物) 2.0 %

(2) 75%エタノール 残余

実施例 5

(1) クワ(落)の70%エタノール抽出物(乾燥物) 2.0 %

(2) 75%エタノール 残余

実施例 6

(1) ホップ(枝、葉)の70%エタノール抽出物(乾燥物) 2.0 %

(2) 75%エタノール 残余

実施例 7

(1) ビワ(実)の50%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %

(14)

- (2) ホップ(葉)の50%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %
 (3) 50%エタノール 残余

実施例 8

- (1) クワ(実)の50%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %
 (2) マイカイの70%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %
 (3) 60%エタノール 残余

実施例 9

- (1) カリン(実)の50%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %
 (2) モクレンの50%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %
 (3) 50%エタノール 残余

実施例 10

- (1) スイヨウバイの80%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %
 (2) センブリ(茎、葉)の90%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %
 (3) 70%エタノール 残余

実施例 11

- (1) テイトウの60%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %

(15)

- (2) トウガラシ(実)の50%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %
 (3) 50%エタノール 残余
- 実施例 16
- (1) ホンハクソウの70%エタノール抽出物(乾燥物) 0.7 %
 (2) チヨの90%エタノール抽出物(乾燥物) 0.7 %
 (3) マンネンロウ(葉)の80%エタノール抽出物(乾燥物) 0.6 %
 (4) 70%エタノール 残余

実施例 17

- (1) マイカイの75%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %
 (2) アサ(実)の80%エタノール抽出物(乾燥物) 0.4 %
 (3) ゴマ(種子)の90%エタノール抽出物(乾燥物) 0.6 %
 (4) 80%エタノール 残余

実施例 18

- (1) ジャガンの60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.3 %
 (2) クワ(実)の70%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %

(17)

- (2) ショウガ(根)の60%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %
 (3) 60%エタノール 残余

実施例 12

- (1) マイカイの80%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %
 (2) ニンジン(根)の85%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %
 (3) 70%エタノール 残余

実施例 13

- (1) ハラミツの60%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %
 (2) トウキ(根)の50%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %
 (3) 70%エタノール 残余

実施例 14

- (1) クワ(実)の75%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %
 (2) オウギ(根)の60%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %
 (3) 70%エタノール 残余

実施例 15

- (1) チヨの50%エタノール抽出物(乾燥物) 1.0 %

(16)

- (3) ジオウ(根)の65%エタノール抽出物(乾燥物) 0.7 %
 (4) 65%エタノール 残余
- 実施例 19
- (1) ショウビの70%エタノール抽出物(乾燥物) 0.7 %
 (2) ムカカの60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.7 %
 (3) カシユウ(根)の90%エタノール抽出物(乾燥物) 0.6 %
 (4) 75%エタノール 残余

実施例 20

- (1) ホップ(花、茎)の80%エタノール抽出物(乾燥物) 0.7 %
 (2) ヨウの60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.7 %
 (3) ゴシユウ(実)の70%エタノール抽出物(乾燥物) 0.6 %
 (4) 70%エタノール 残余

実施例 21

- (1) クワ(花)の75%エタノール抽出物(乾燥物) 0.6 %
 (2) ホップ(皮)の60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.7 %

(18)

- (3) タンジン(根)の70%エタノール抽出物(乾燥物) 0.7 %
 (4) 60%エタノール 残余

実施例 22

- (1) リュウゲソウの50%エタノール抽出物(乾燥物) 0.3 %
 (2) ジャモの70%エタノール抽出物(乾燥物) 0.1 %
 (3) カリン(実)の70%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (4) フクボンの60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.1 %
 (5) クワ(枝、実)の70%エタノール抽出物(乾燥物) 0.3 %
 (6) ビワ(根、茎)の50%エタノール抽出物(乾燥物) 0.1 %
 (7) ホップ(根、茎)の50%エタノール抽出物(乾燥物) 0.1 %
 (8) ジオウ(根)の60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (9) カシュウ(根)の60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (10) アロエ(葉)の55%エタノール抽出物(乾燥物) 0.1 %
 (11) ヨモギ(全草)の55%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %

(19)

- (3) ビワ(実)の50%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (4) カラシ(種子)の80%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (5) ホウルイの55%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (6) ヤチヨマの60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (7) カンキョウ(根)の50%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (8) ベニバナ(花)の75%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (9) タンジン(根)の60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (10) ホコツシ(根)の75%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (11) 70%エタノール 残余

実施例 25

- (1) キンオウの60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (2) ケンチョウの70%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (3) ジュウシマイ80%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (4) ラクセキの70%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %

(21)

- (12) ショウガ(根)の60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.1 %
 (13) 70%エタノール 残余

実施例 23

- (1) ゴマ(種子)の75%エタノール抽出物(乾燥物) 0.3 %
 (2) サンショウ(実)の70%エタノール抽出物(乾燥物) 0.3 %
 (3) ジオウ(根)75%1,3-ブチレングリコール抽出物(乾燥物) 0.3 %
 (4) ゲッキカの80%エタノール抽出物(乾燥物) 0.3 %
 (5) ビワ(花)の75%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (6) ノイバラの65%エタノール抽出物(乾燥物) 0.3 %
 (7) イリョウサイの60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.3 %
 (8) 60%エタノール 残余

実施例 24

- (1) ニンジン(根)の70%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (2) オウギ(根)の60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %

(20)

- (5) ビワ(皮)の50%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (6) マンケイシ(実)の60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (7) カシュウ(根)の60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (8) コッサイホ(根、茎)の55%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (9) イネ(根)の60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (10) ゴマ(種子)の75%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
 (11) 75%エタノール 残余

(22)

表-1 各試料の毛再生面積(15日後)

試料	毛再生面積(%)
比較例1	5
比較例2	10
比較例3	22
比較例4	20
比較例5	20
比較例6	45
比較例7	50
比較例8	58
比較例9	55
比較例10	43
比較例11	41
比較例12	62
比較例13	78
比較例14	63
比較例15	65
比較例16	60
比較例17	68
比較例18	61
比較例19	75
比較例20	62
比較例21	70
比較例22	80
比較例23	85
比較例24	80
比較例25	70
比較例26	79
比較例27	91
比較例28	93
比較例29	95
比較例30	98

表-1 から明らかなように各実施例において毛髪の再生に対する効果が認められた。

(23)

- (9) センキュウ(根茎)55%エタノール抽出物(乾燥物) 0.1 %
- (10) ヨモギ(全草)55%エタノール抽出物(乾燥物) 0.3 %
- (11) ショウガ(根)60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.1 %
- (12) プロピレングリコール 0.5 %
- (13) ヒアルロン酸ナトリウム 0.01%
- (14) 75%エタノール 残余

(25)

実施例 26 ヘアートニック

以下に示す組成のトニックを調製して実使用にてフケ、発毛、抜毛等の症状に対する効果を検討した。

フケ、発毛、抜毛等の症状を呈する15名の男性(年齢25才~62才)に1日1~2回、1~5mlずつ4カ月にわたって投与し、表-2の結果を得た。フケ、発毛及び抜毛に優れていた。

- (1) ノイバラ(花)50%エタノール抽出物(乾燥物) 0.3 %
- (2) マイカイ(花)70%エタノール抽出物(乾燥物) 0.4 %
- (3) カリン(実)70%エタノール抽出物(乾燥物) 0.1 %
- (4) サンザシ(実)50%エタノール抽出物(乾燥物) 0.1 %
- (5) クワ(実)70%エタノール抽出物(乾燥物) 0.3 %
- (6) ビワ(枝)50%エタノール抽出物(乾燥物) 0.1 %
- (7) ジオウ(根)60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.2 %
- (8) カシュウ(根)60%エタノール抽出物(乾燥物) 0.1 %

(24)

表-2 使用試験結果

被験者	年齢	フケ	発毛	抜毛
I	35	有効	有効	有効
II	45	有効	著効	有効
III	45	有効	有効	有効
IV	36	無効	有効	有効
V	37	著効	著効	有効
VI	46	有効	有効	有効
VII	42	有効	有効	有効
VIII	55	有効	有効	有効
IX	34	有効	有効	有効
X	34	有効	有効	有効
XI	49	著効	無効	無効
XII	46	著効	無効	有効
XIII	45	有効	著効	著効
XIV	44	有効	有効	有効
XV	60	有効	有効	有効

前記の表-2 においては下記規準により効果判定を行った。

(26)

1. フケ防止効果テスト

「無効」とは治療にも拘らず何らの改善もみられないもの。

「有効」とはフケの発生が減少したもの。

「著効」とはフケの発生が止ったもの。

2. 発毛効果テスト

「無効」とは治療にも拘らず何らの改善もみられないもの。

「有効」とは脱毛部の 2/3 以上に毛の新生が認められるもの。

「著効」とは脱毛部に毛が生えそろったもの。

3. 抜毛効果テスト

「無効」とは治療にも拘らず何らの改善もみられないもの。

「有効」とは抜毛の進行が減少したもの。

「著効」とは抜毛が止ったもの。

実施例 27 ヘアートニック

(1) マイカイ(花)70%プロピレングリコール抽出物(乾燥物)	1.0 %
(2) カシュウ(根)60%エタノール抽出物(乾燥物)	0.5 %

(27)

(3) ショウガ(根、茎)90%エタノール抽出物(乾燥物)	0.5 %
(4) ポリオキシエチレン(8モル)オレイルアルコールエーテル	2.0 %
(5) プロピレングリコール	5.0 %
(6) ヒアルロン酸ナトリウム	0.01%
(7) 75%エタノール	残余

実施例 28 ヘアートニック

(1) ゴマ(種子)70%プロピレングリコール抽出物(乾燥物)	1.0 %
(2) クワ(枝、実)70%エタノール抽出物(乾燥物)	1.0 %
(3) ビワ(枝)90%1,3-ブチレングリコール抽出物(乾燥物)	0.5 %
(4) ニンジン(根)のエタノール抽出物(乾燥物)	0.5 %
(5) ショウジョウ(根)60%エタノール抽出物(乾燥物)	1.6 %
(6) チクセツニンジン(根)70%エタノール抽出物(乾燥物)	0.5 %
(7) ポリオキシエチレン(8モル)オレイルアルコールエーテル	0.5 %
(8) プロピレングリコール	5.0 %
(9) ヒアルロン酸ナトリウム	0.01%

(28)

(10) 60%エタノール 残余
実施例 1 ~ 25 の各化粧品は各処方含水エタノールに他の成分を加え溶解して製造した。実施例 27 および 28 の化粧品の発毛に対する結果も有効なものであった。

実施例 29 シャンプー

	(重量%)
(1) ココイルメチルタウリンナトリウム	10
(2) ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン	8
(3) ラウリン酸ジエタノールアミド	4
(4) エチレングリコール脂肪酸エステル	1.5
(5) プロピレングリコール	2
(6) マイカイ(花)50%エタノール抽出物(乾燥物)	0.2
(7) ノイバラ(花)30%エタノール抽出物(乾燥物)	0.4
(8) セイヨウバラ(花)40%エタノール抽出物(乾燥物)	0.1
(9) ソウジン(果実)60%エタノール抽出物(乾燥物)	0.05

(29)

(10) エデト酸 2 ナトリウム塩	0.1
(11) 香料	適量
(12) 精製水	残余

実施例 30 リンス

(1) ステアリルトリメチルアンモニウムクロリド	2.0
(2) セチルアルコール	2.0
(3) シリコン油	3.0
(4) ポリオキシエチレン(10モル)オレイルアルコールエーテル	1.0
(5) グリセリン	5.0
(6) サンザシ(果実)1,3-ブチレングリコール抽出物(乾燥物)	0.5
(7) モクレン(果実)プロピレングリコール抽出物(乾燥物)	0.5
(8) 精製水	84.0
(9) 香料	適量
(10) 防腐剤	適量
(11) 紫外線吸収剤	適量

実施例 31 ヘアクリーム

(1) ミツロウ	3.0%
(2) ワセリン	15.0

(30)

(3) 流動パラフィン	42.0
(4) ポリオキシエチレン(5モル) ステアリン酸エステル	3.0
(5) ポリオキシエチレン(6モル) オレイルアルコールエステル	2.0
(6) ポリオキシエチレン(6モル) セチルアルコールエステル	1.0
(7) クワ(果実)70%エタノール抽出物(乾燥物)	1.0
(8) マイカイ(花)60%エタノール抽出物(乾燥物)	0.5
(9) セイヨウバラ(花)50%エタノール抽出物(乾燥物)	0.5
(10) 精製水	32.0
(11) 香料	適量
(12) 防腐剤	適量

実施例29~31の各化粧料は頭皮や頭髮を清潔に保ち、ツヤや美しさを与え、フケやカユミの防止効果にも優れていた。

〔発明の効果〕

バラ科植物またはクワ科植物の抽出物を含有する本発明の頭部化粧料は、従来の同種の化粧料よ

りも著しく優れた各種の性質(例えば、発毛、育毛、養毛、脱毛防止効果等)を示す。また、従来から頭部化粧料中に配合することが知られている各種の植物抽出物と前記のバラ科植物および/またはクワ科植物の抽出物とを組合せて使用すると相乗作用が認められる。

特許出願人

ベイジン リーユエン リーヨン ファシュエ
グーフェン ヨウシエンゴンスー

株式会社 資 生 堂

特許出願代理人

弁理士 青 木 朗
弁理士 石 田 敬
弁理士 森 田 憲 一
弁理士 山 口 昭 之
弁理士 西 山 雅 也

(31)

(32)

第1頁の続き

⑦発明者 ヤン ナンジャン

中華人民共和国、ベイジンシ チヨンウエンチュー ドン
スー クアイユー ナンジェ 32ハオ ベイジン リーヨ
ン ファシュエ イエンジュウスオ

⑦発明者 チヨン ジードン

中華人民共和国、ベイジンシ チヨンウエンチュー ドン
スー クアイユー ナンジェ 32ハオ ベイジン リーヨ
ン ファシュエ イエンジュウスオ

⑦発明者 駒 崎 久 幸

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研
究所内

⑦発明者 仲 西 城 太 郎

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研
究所内

⑦発明者 富 田 健 一

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研
究所内

手続補正書(自発)

平成1年8月23日

特許庁長官 吉田文毅 殿

1. 事件の表示

昭和63年特許願第128597号

2. 発明の名称

頭部化粧料

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

名称 ベイジン リーユエン リーヨン ファッシュエ
グーフェン ヨウシエン ゴンスー

名称 株式会社 資生堂

4. 代理人

住所 〒105 東京都港区虎ノ門一丁目8番10号

静光虎ノ門ビル 電話 504-0721

氏名 弁理士(6579) 青木 朗

(外3名)



方式審査 (特許)

2. 特許請求の範囲

1. モモ、キンミズヒキ、ヘビイチゴ、ダイコンソウ、ヤマブキ、カワラサイコ、ツチグリ、オヘビイチゴ、コウシンバラ、ナニワイバラ、ノイバラ、ハマナス、マイカイ、ボサツイバラ、キイチゴ、トックリイチゴ、シマバライチゴ、エビガライチゴ、ワレモコウ、サンザシおよびカリンからなる群から選んだバラ科植物の抽出物少なくとも一種、またはハラミツ、コウゾ、ハリグワ、イチジク、ヒメイトビ、イタビカズラ、アサおよびガジュマルからなる群から選んだクワ科植物の抽出物少なくとも一種を含有することを特徴とする頭部化粧料。

2. ビワまたはクワの果実、花、茎、皮または枝の抽出物を含有することを特徴とする頭部化粧料。

3. ホップの花、根、茎、皮、枝または葉の抽出物を含有することを特徴とする頭部化粧料。

4. バラ科植物の抽出物またはクワ科植物の抽出物と、リンドウ科、セリ科、ウコギ科、ショウ

5. 補正の対象

- (1) 明細書の「特許請求の範囲」の欄
- (2) 明細書の「発明の詳細な説明」の欄

6. 補正の内容

(1) 明細書の特許請求の範囲を別紙のとおり補正する。

(2)① 明細書の第4頁第8行に「Thunb)、ボサツイバラ」とあるを「Thunb)、マイカイ (Rosa rugosa Thunb.)、ボサツイバラ」と補正する。

② 同第7頁第14行から第15行に「マイカイ、ボサツイバラ」とあるを「マイカイカ(玫瑰花)、マイカイの花であるマイカイカ(玫瑰花)、ボサツイバラ」と補正する。

③ 同第14頁第6行に「マイカイの」とあるを「マイカイ花の」と補正する。

④ 同第17頁第13行に「マイカイの」とあるを「マイカイ花の」と補正する。

7. 添付書類の目録

特許請求の範囲

1通

(2)

ガ科、ナス科、ゴマノハグサ科、マメ科、ゴマ科、タデ科、ロカイ科、ミカン科、キク科、アブラナ科、イネ科、クマツヅラ科、シソ科およびウラボシ科からなる群から選んだ植物の抽出物少なくとも一種とを含有することを特徴とする頭部化粧料。

(1)

(2)